



成長のための大事な失敗

校長 富田 操

私たちは、多くの失敗をします。失敗をしない人間などいません。私にいたっては、それこそ毎日失敗をいやというほど重ねています。そして、失敗をすると、悲しい気持ちになります。「自分はなんてだめなんだ・・・。」と感じたりもします。

学校は、多くの子どもが、たくさん失敗する場所です。学校でおきていることの多くが「失敗する」経験だといってもよいくらいかもしれません。

「失敗」すること自体は、決して楽しいことではありません。ですが、私たちに学びをもたらすのは、どちらかという「成功」よりも「失敗」からの方が多いうように思います。

人は、「失敗から学ぶ」ことの方が圧倒的に多いのではないのでしょうか。

成功は、人に自信をもたらします。しかし、ともすれば、その成功はその先の学びを与えてくれないこともあります。「やった！」という思いが強いと、そこから学ぶという気持ちには中々なりにくいのではないかと思います。

「なぜ成功したのか・・・。」ということをつつまでも考え続けるのは難しいことです。なぜなら、もう成功してしまっているのですから。

しかし、失敗は違います。「なぜ、失敗してしまったのだろう・・・。」「どうすれば上手くいったのだろう・・・。」

何度も何度も自分の中で繰り返します、いや、繰り返してしまいます。失敗には続きがあります。

「次は成功したい。」「次は少しでも上手くやりたい」という続きです。

そのことが、人に「学び」をもたらします。もし、次に大成功とは言わないまでも少しでも改善できたとしたら、そこには必ず「学び」があったと言えるはずです。

その学びを積み重ねて、人は、一つずつ成長していくのではないのでしょうか。

もちろん、それと同じくらい子どもが成功することも大切です。学校では、また、たくさんの成功体験をさせて子どもに自信をつけてもらいたいと思います。

成功だけでも、失敗だけでも子どもは育ちません。子どもが成長するためには両方が必要なのは実は当然のことだと思います。

しかし、どちらかという一般的な「失敗」は「成功」よりも価値がないものと、捉えられがちです。

どちらも同じように大切だ、という認識をもって、「成功」を期待しすぎず、「失敗」を恐れすぎず、学校は子どもたちを支援していきます。

夏休みが近づいてきました。子どもたちが家庭や地域で過ごす時間が増えます。家庭・地域でも、次の成長につながる子どもたちの失敗を、温かく見守っていただき、ご支援くださいますようお願いいたします。